

2023年5月

スリランカ紅茶農園における人権影響評価実施報告

キリンググループは、2021年4月に「キリンググループ持続可能な調達方針」^{※1}及び「キリンググループ持続可能なサプライヤー規範」^{※2}を改訂し、キリンググループの調達品について外部専門家の助言も受け、人権リスク並びに事業影響度の軸で再評価しました。そしてその評価結果に基づき、2022年中計のCSVコミットメントの指標として、人権リスクの高い調達品のサプライチェーンに対する継続的な人権デューデリジェンスの実施を掲げています。2022年度においては紅茶葉が選定され、その中で国別人権リスクが高く、最も調達量の多いスリランカのサプライチェーンにおける人権影響評価（HRIA^{※3}）を実施しました。現地監査は、第三者機関である Preferred by Nature^{※4} によって行われ、2023年1月に監査結果報告書を受領しました。

※1 [「キリンググループ持続可能な調達方針」](#) ※2 [「キリンググループ持続可能なサプライヤー規範」](#)

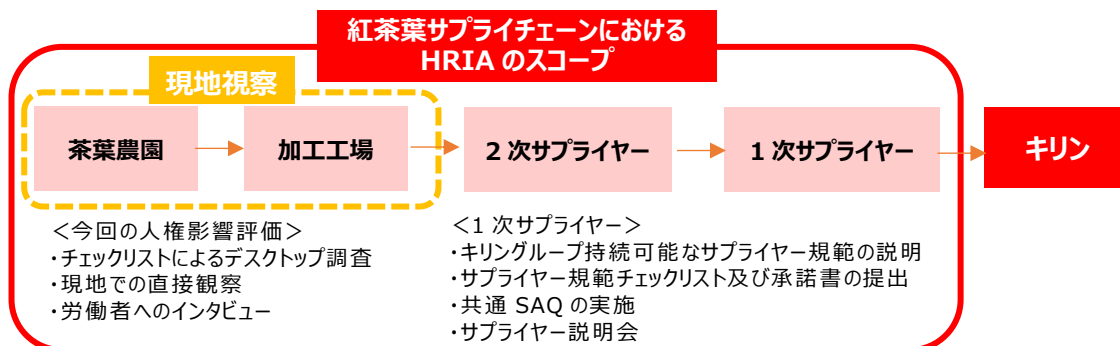
※3 HRIA : Human Rights Impact Assessment

※4 [Preferred by Nature](#) :100 以上国々の人、自然、気候に利益をもたらすより良い土地管理と商慣行を支援する非営利団体

1. HRIA スコープと手法

今回の HRIA は、サプライチェーンの最上流である紅茶葉農園を対象とし、中でも比較的高いリスクと判断されたレインフォレスト・アライアンス非認証農園の中から調達数量の多い農園を選定し、実施しました。現地監査は直接の取引先である 1 次サプライヤー、並びに現地 2 次サプライヤーの協力を得て、「キリンググループ持続可能なサプライヤー規範」及び、持続可能な農業基準に沿った項目で、Preferred by Nature の監査員により行われました。

紅茶葉のサプライチェーン



2. 対象範囲

スリランカ Kandy地方の農園及び紅茶葉製造工場

3. 評価項目

評価項目は、マネジメント、労使対話、環境・労働安全衛生（EHS）、防災管理、応急処置、食品安全、雇用・採用、組織図、就業規則・労働契約、ハラスメント・虐待、業務記録、賃金

4. 評価方法

「キリングループ持続可能なサプライヤー規範」及び、持続可能な農業基準に沿った評価チェックリストを作成し、実地監査に使用しました。なお、評価チェックリストは、「経営」「環境・労働安全衛生」「労働者の権利」「移民・派遣労働者に関する問題」「雇用条件」の項目 95 問で構成され、評価は以下 2 つのステップで実施しました。

- ① デスクトップ調査として、現地訪問前に評価チェックシートを用いて農園の方針と手順を確認。
- ② Preferred by Nature の監査チームによる 2 日間の現地評価・直接観察を実施し、労働者※、労働組合代表、監督者、委員会代表、施設・部門責任者、男女合計 31 人へのインタビューとエビデンスを確認。

※工場の従業員、畑で茶葉の摘み取りに携わる従業員を含む

5. 評価結果

評価結果として、好事例と改善が必要となる課題の両方がありました。

評価項目のうち、マネジメント、EHS、応急処置において良い取組みが実施されていることがわかりました。一方で、就業規則・労働契約、賃金などの項目の一部において課題が発見されました。

6. 今後のステップ

キリングroupは発見された課題に対して事実確認と是正措置を行うべく、サプライヤーへ監査報告書を共有するとともに、専門家の意見も踏まえた対応方針を策定し、農園を保有する企業とコミュニケーションを開始しています。賃金や手当に関する指摘事項への対応を最優先とし、その他労務上の指摘事項も併せ、以下のスケジュールで取組みを進めていきます。なお、取組みの進捗については当社 HP 上で適時開示します。

対応策	実施時期
・1次サプライヤー、2次サプライヤーへ監査報告書の共有	2023年1月（完了）
・社内対応方針の策定	2023年2～3月（完了）
・農園保有企業へ監査報告書の共有、並びに事実確認、原因調査、改善要請。	2023年4～5月
・定期的な改善取組みの進捗確認	2023年6月～
・改善状況を確認するための現地訪問	2023年9～11月
・改善取組みの進捗報告（当社 HP にて）	2024年1月

※他の主要調達先農園についても今回の対応を踏まえ、実態調査を実施する予定です。



社会貢献活動の記録



個人用防護具が整理されている様子



労働者が無料で使用できる救急車